

幼さの程度による“かわいい”のカテゴリ分類

井原 なみは・入戸野 宏

広島大学大学院総合科学研究科

Categorization of “kawaii” by the level of infantility

Namiha IHARA and Hiroshi NITTONO

Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University
Higashi-Hiroshima 739-8521, Japan

Abstract: “Kawaii” is a Japanese word that is translated as cute in English. This word becomes popular worldwide and is regarded as a key concept characterizing modern Japanese culture. However, the word is used so widely in daily life that it is difficult to define what is kawaii and what makes things kawaii. Ethologists have suggested that *baby schema*, a set of physical features of baby animals, is a key stimulus to elicit the feeling of cuteness. In this study, we examined the relationship between the feeling of cuteness and the infantility of various objects in a survey of 166 university students. First, we collected 93 animate and inanimate objects that are sometimes described as kawaii. Half of the raters ($n = 84$) made the cuteness ratings of the 93 items (either words or short phrases), while the other half ($n = 82$) made the infantility ratings of these items. Consistent with the baby schema hypothesis, the ratings of cuteness and infantility were moderately correlated ($r_s = .50$ and $.45$ for men and women, respectively). However, there was a cluster of items that were

rated as cute but not infant (e.g., smile, accessories, and pastel color), which are probably related to feminine culture. Moreover, women rated various items to be cuter than men did, while no gender difference was found for the infantility rating. The findings suggest that, although the feeling of kawaii is elicited by baby schema and infantility, its scope is not limited to them.

Keywords: kawaii, cuteness, baby schema, infantility, feminine culture

現代の日本には、“かわいい”という言葉が溢れている。もともとは“あわれで、人の同情をさそうようなさまである”という意味だったが、中世後半から近世にかけて“心がひかれて、放っておけない”、“愛すべきさまである”という意味へと変化した（日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部，2000；入戸野，2009）。現在ではその意味がさらに拡張され、私たちの生活のさまざまな領域に入り込んでいる。また、アニメやキャラクタ、ファッションを通じて、日本

を代表するポップカルチャーとして世界中に広がっている。このような“かわいい”文化については、人文学や社会学、デザイン、マーケティングの視点からたくさんの議論がなされてきた（古賀，2009；真壁・チームカワイイ，2009；増淵，1994；仲川，2010；櫻井，2009；島村，1991；四方田，2006）。

“かわいい”と表現される対象は多岐にわたり、時代によっても変遷する。そのため、かわいとは何かを一般的に定義することは難しい。

「カワイイ」にはもはや定義は要らない」（櫻井，2009，p. 185）といわれることさえある。しかし，“かわいい”という言葉で私たちが共通に理解できる心的状態があることは確かである。

“かわいい”を対象がもつ属性ではなく、ある対象に触れて生じる個人の感情として捉えることにより、心理学的・行動科学的な研究を行うことができる（入戸野，2009，2011）。

かわいいという感情（以下、かわいい感情）を抱く典型的な対象として、赤ちゃんや子どもなどの幼いものがある。動物行動学者のLorenz（1943）は、ベビースキーマ（baby schema）という概念を提唱した。ベビースキーマとは、幼い生物がもつ身体的特徴の集合であり、身体に比して大きな頭、全体的に丸みのある体型、やわらかい体表面といったものが含まれる。そのような特徴を持った個体はかわいらしく（愛らしく）感じられ、周囲の個体の攻撃を抑制し、接近・養育・保護などの行動を受けやすくなると考えられている（Eibl-Eibesfeldt，1970 日高・久保訳 1974；Lorenz，1965 丘・日高訳 1989）。このベビースキーマの考え方に基けば、かわいい感情は、養育や保護といった行動と同じように、ある特徴をもった対象が引き起こす生得的な反応ということになる。これと並行して、文化論においても、かわいいは未成熟と結びつけて語られることが多い（Kinsella，1995；古賀，2009；四方田，2006）。

しかし，“かわいい”はベビースキーマだけで説明できるのだろうか。日常生活では、必ずしも幼くない対象——たとえば、老人（小原，2000，2006）や図形などの無生物（前田，1983，1984，

1985）——に対して“かわいい”という言葉が使われることがある。また，“かわいい”の定義が拡散しているために、個人的な趣味や状況に依存した、一般性の低い“かわいい”も存在しそうである。

本研究では、幼さとかわいさの関係について大学生を対象とした質問紙調査を行った。かわいいと表現されることのある対象を予備調査によって幅広く選定し、その幼さとかわいさの程度を別々の参加者に評定するように求めた。ベビースキーマの考え方に基けば、幼さとかわいさの評定値には正の相関があると予想される。その上で、(1)幼さと関係しないかわいいものがあるか、(2)一般には理解しがたい種類のかawaiiものがあるかを検討した。先行研究から、女性は男性に比べて、かわいいものに対してより積極的で敏感であることが示されている（入戸野，2009）。そのため、分析は男女別に行った。

方法

対象者

広島大学の教養教育科目（心理学）の授業を受講した182名に回答を求めた。このうち、同意が得られ、回答に不備がなく、22歳以下で、留学生でない166名（男性71名、女性95名）を分析対象とした。年齢は18–22歳で、平均年齢は19.2歳であった（男性19.1歳、女性19.3歳）。調査は2010年1月下旬に実施した。

質問紙

まず、各種メディア（雑誌やインターネット）の調査やインタビューを通じて、“かわいいと感じる事象”を293項目を集めた。そこから、次の基準によって実験者が93項目を選定した。(1)人物名や商品名などの固有名詞は除く、(2)複雑な状況や個人的な体験などわかりにくい記述は除く、(3)質の類似しているものはまとめる。これら93項目を列記した質問紙を用意した。使用した項目を付録として載せた。

参加者をランダムに2群に分け、一方の群には各項目のかawaiiさを、他方の群には各項目の幼さを5件法（1：全くそう思わない–5：とてもそ

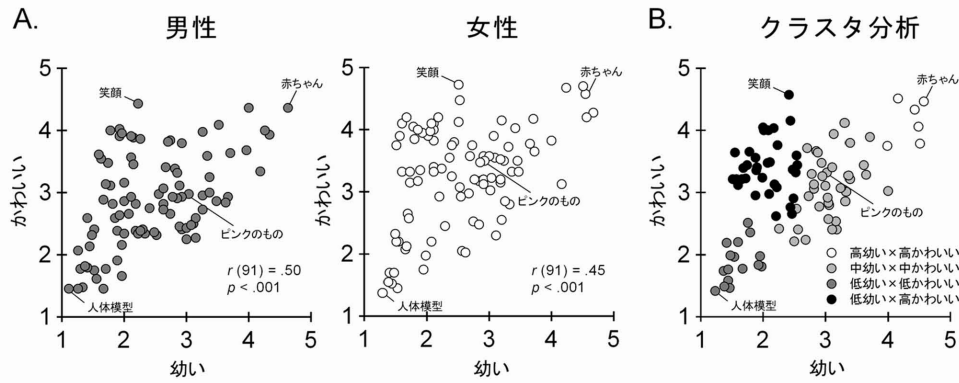


図1. 男女別に求めた93項目に対するかわいさと幼さの平均評定値とクラスタ分析の結果

う思う)で回答してもらった。かわいさを尋ねる質問紙については84名(男性44名, 女性40名), 幼さを尋ねる質問紙については82名(男性27名, 女性55名)の回答を分析対象とした。

分析方法

各項目のかわいさと幼さの平均評定値を男女別に求め, かわいさと幼さを軸にした二次元平面上にプロットした。93項目に対する評定値を使ってPearsonの積率相関係数を求めた。次に, 男女別のかわいさと幼さの平均評定値(標準化なし)に基づき, 93項目間の平方ユークリッド距離を算出し, 群平均法によるクラスタ分析を行った。

結果

男女ごとの平均評定値を図1 Aに示す。ほとんどの項目は右上がりの対角線上に並んでおり, 中程度の正の相関が認められた。

クラスタ分析の結果(付録参照)に基づき, 幼

さとかわいさの関係を整理するのに都合のよい4つのクラスタを選定した。図1 Bに示すように, 3つのクラスタは対角線上に並んでおり, “高幼い×高かわいい”(6項目, 例: 赤ちゃん, 子ども), “中幼い×中かわいい”(37項目, 例: ピンクのもの, 人形), “低幼い×低かわいい”(16項目, 例: 人体模型, トカゲ)と呼ぶことができる。この3つのクラスタによって, 上述した幼さとかわいさの正の相関が形成されている。残りの1つが, 幼さの評定値は低いがかわいいと評定される“低幼い×高かわいい”(34項目, 例: 笑顔, 女性)というクラスタであった。

評定値の性差を検討するために, 4つのクラスタについて男女別の平均評定値を求めた。表1にその結果を示す。かわいさ得点と幼さ得点について, 性別(参加者間要因)×クラスタ(参加者内要因)の分散分析を行った。かわいさ得点については, 性別の主効果とクラスタの主効果および交互作用がすべて有意であった, $F(1, 82) = 16.14$,

表1. クラスタごとの男女別平均評定値

評定次元		クラスタ							
		高幼い×高かわいい (6項目)		中幼い×中かわいい (37項目)		低幼い×低かわいい (16項目)		低幼い×高かわいい (34項目)	
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
幼さ	男性 (n = 27)	4.23	0.62	2.96	0.71	1.54	0.43	2.02	0.78
	女性 (n = 55)	4.42	0.53	3.11	0.73	1.61	0.52	2.08	0.66
	t(80)		1.46		0.84		0.60		0.38
	p		.148		.402		.552		.708
かわいさ	男性 (n = 44)	3.95	0.70	2.96	0.59	1.80	0.73	3.13	0.53
	女性 (n = 40)	4.38	0.43	3.22	0.55	1.96	0.63	3.73	0.49
	t(82)		3.35		2.09		1.05		5.35
	p		.001		.039		.296		< .001

$p < .001$; $F_s(3, 246) = 316.65$ and 3.29 , $p < .001$ and $p = .048$, Greenhouse-Geisser $\epsilon = .562$ 。クラスタごとに性別の効果を t 検定 (両側検定) で調べたところ, “低幼い×低かわいい” クラスタのみ差がなく, それ以外は差が認められた。他方, 幼さ得点についての分散分析は, クラスタの主効果のみが有意であった, $F(3, 240) = 581.19$, $p < .001$, Greenhouse-Geisser $\epsilon = .819$ 。性別の主効果や交互作用はなかった, $F_s < 1$ 。

考 察

今回の調査によって, 幼さとかawaiiさには中程度の正の相関があることが示された。この結果は, ベビースキーマがかawaii感情を生じさせるという考え方 (Lorenz, 1943) や, かawaiiと未成熟を結びつける考え方 (Kinsella, 1995; 古賀, 2009; 四方田, 2006) と一致している。

その一方で, 幼いとは評価されないがかawaiiと評価される項目があることも明らかになった。この結果は, かawaii感情がベビースキーマに対する反応にとどまらないことを示している。“低幼い×高かわいい” クラスタに含まれる項目は, “笑顔”, “ハート”, “女性”, “パステルカラー”, “アクセサリー”, “北欧雑貨” といったものであった。これらは女性文化または少女趣味に関連している可能性がある。“‘かawaii’ は女の子のための特別な価値観である” (古賀, 2009, p. 206) というように, “かawaii” 文化についてのほとんどの論者は, かawaiiと女性文化との関係を指摘している (増淵, 1994; 仲川, 2010; 櫻井, 2009; 島村, 1991; 四方田, 2006)。

ほとんどの項目について女性は男性よりもかawaiiさを高く評定したという結果は, かawaiiものに対する態度や行動には性差があるという先行研究と一致する (入戸野, 2009)。興味深いことに, 幼さの評定値には性差がなかった。幼さとは関係しないかawaiiさがあるという上述の知見とともに, この結果も幼さとかawaiiさは異なる概念であることを示している。これに関連して, Hildebrandt & Fitzgerald (1978) は, 生後4ヶ月と8ヶ月の幼児の写真に対するかawaiiさの評価

と, 行動反応 (注視時間) や生理反応 (笑顔を作る大頬骨筋の活動変化量) との関係調べた。その結果, かawaiiと評価された写真は長く見つめられたが, かawaiiさと大頬骨筋活動には相関がなかった。しかし, 他の刺激 (大人の顔写真や風景, 日用品など) と比べると, 幼児の顔は大頬骨筋を強く活動させた。この知見も, かawaiiさと幼さに対する反応が異なる可能性を示唆している。

今回の調査で用いた93項目は, かawaiiと表現されることのある項目を予備調査によって集めたものである。しかし, “低幼い×低かわいい” クラスタに含まれる項目のように, かawaiiさの平均評定値が低いものも存在した。この結果は, “かawaii” の定義が拡散しており, 個人的な趣味や状況に依存した, 一般には理解しがたい “かawaii” が存在することを示している。入戸野 (2009) は, “かawaii” という言葉を, 幼いものにかぎらず “意識主体にとって害がなく緊張を感じさせず, 保護したいというポジティブな感情を喚起させる対象をさす形容詞である” (p. 32) と定義した。かawaii感情は, 対象によって自動的に引き起こされるのではなく, 対象との関わりの中で生じるために, このような個人化された “かawaii” も存在しうると考えられる。

今回の調査により, 幼さとかawaiiさには関連があるが, かawaii感情を抱く対象はベビースキーマをもつ幼いものに限定されないことが明らかになった。今後は, かawaii感情の質が対象によって異なるかどうかを検討したい。

謝 辞

本研究は, 科学研究費補助金 (基盤研究(B) 23330217) によって行った。

引用文献

- Eibl-Eibesfeldt, I. (1970). *Liebe und Haß: Zur Naturgeschichte elementarer Verhaltensweisen*. München: Piper. (アイブル=アイベスフェルト, I. 日高敏隆・久保和彦 (訳) (1974) 愛と憎しみ: 人間の基本行動様式とその自然誌 みすず書房)
- Hildebrandt, K. A., & Fitzgerald, H. E. (1978). Adults' responses to infants varying in perceived cuteness. *Behavioural Processes*, **3**, 159-172.
- Kinsella, S. (1995). Cuties in Japan. In L. Skov & B. Moeran (Eds.), *Women, media and consumption in Japan*. Richmond: Curzon Press. pp. 220-254.
- 古賀令子 (2009). 「かわいい」の帝国: モードとメディアと女の子たち 青土社
- 小原一馬 (2000). 「かわいいおばあちゃん」-女子大生の「かわいい」の語法に見られる, ライフコース最終期に関する社会の葛藤する価値観の止揚- 教育・社会・文化 (京都大学大学院教育学研究科研究紀要), **7**, 25-43.
- 小原一馬 (2006). 「かわいいおばあちゃん」 稲垣恭子 (編) 子ども・学校・社会-教育と文化の社会学 世界思想社 pp. 154-191.
- Lorenz, K. (1943). Die angeborenen Formen möglicher Erfahrung [Innate forms of potential experience]. *Zeitschrift für Tierpsychologie*, **5**, 233-409.
- Lorenz, K. (1965). *Über tierisches und menschliches Verhalten*. München: Piper (ローレンツ, K. 丘直通・日高敏隆 (訳) (1989). 動物行動学II 思索社)
- 前田實子 (1983). Baby-schemaに関する実験的考察-母性心性の解発刺激を中心に- 武庫川女子大学幼児教育研究所紀要, **2**, 4-42.
- 前田實子 (1984). Baby-schemaに関する実験的考察II-「可愛らしさ」の諸要因について- 武庫川女子大学幼児教育研究所紀要, **3**, 4-50.
- 前田實子 (1985). Baby-schemaに関する実験的考察III-「丸さ」の分析を中心に- 武庫川女子大学幼児教育研究所紀要, **4**, 4-42.
- 真壁智治・チームカワイイ (2009). カワイイパラダイムデザイン研究 平凡社
- 増淵宗一 (1994). かわいい症候群 日本放送出版協会
- 仲川秀樹 (2010). “おしゃれ”と“カワイイ”の社会学-酒田の街と都市の若者文化 学文社
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部 (編) (2000). 日本国語大辞典第二版 小学館
- 入戸野 宏 (2009). “かわいい”に対する行動科学的アプローチ 人間科学研究 (広島大学大学院総合科学研究科紀要I), **4**, 19-35.
- 入戸野 宏 (2011). 行動科学的アプローチによるかわいい人工物の研究 感性工学, **10**, 91-95.
- 櫻井孝昌 (2009). 世界カワイイ革命 PHP新書
- 島村麻里 (1991). フェンシーの研究: 「かわいい」がヒト, モノ, カネを支配する ネスコ
- 四方田犬彦 (2006). 「かわいい」論 筑摩書房

付録：93項目に対するクラスタ分析の結果

